

研究・調査報告書

分類番号	報告書番号	担当	
A-540	A-110	24-057	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門 三浦克之
題名 (原題/訳)			
Risk of mortality among patients with alcohol-associated hepatitis in the US from 2007 to 2021 米国における 2007 年から 2021 年までのアルコール関連肝炎患者の死亡リスク			
執筆者			
Tu W, Liangpunsakul S, Nguyen CM, Healey R, Li Y, Radaeva S, Gawrieh S, Bataller R, Su J.			
掲載誌			
Alcohol. 2024 Nov;120:143-150. doi: 10.1016/j.alcohol.2024.06.006. Epub 2024 Jun 20.			
キーワード		PMID	
アルコール関連肝炎、死亡率、予後		38908609	
要 旨			
<p>背景: アルコール関連肝炎 (AH) は、米国における肝臓関連の死亡率、罹患率の主要な原因の一つであるが、死亡率と危険因子は実社会では慎重に研究されていない。本研究では、AH の実社会における死亡率、時間的傾向、および危険因子を検討した。</p> <p>方法: 2007 年から 2021 年までの Clinformatics® Data Mart 医療保険請求データ (全米 50 州、約 7500 万人) を用いて、AH と診断された個人の cohorts を対象とした後ろ向き観察研究を実施した。利用可能な情報には、外来および入院の診療、医療請求、検査結果、死亡記録が含まれる。AH 症例は ICD9-CM (コード 571.1) および ICD-10 (コード K70.1) により同定した。AH の診断に直接関係しない入院を除外し、中等度から重度の AH を診断時前後の入院により入院群を判断した。Cox 回帰を用いて、入院状況別に 90 日および 180 日死亡率、ハザード比 (HR)、95%信頼区間 (CI) を推定した。</p> <p>結果: 2007 年 1 月 1 日~2021 年 3 月 31 日までの間に 71,260,839 人の登録があり、AH の診断前に少なくとも 1 年間継続して保険に加入していた 32,001 人の患者 (72%が男性) のうち 20,912 人 (65.3%) が診断後 7 日以内に入院した。90 日死亡率および 180 日死亡率は、入院患者ではそれぞれ 12.0% (95%CI [11.6%、12.5%]) および 16.0% (95%CI [15.4%、16.5%])、非入院患者では 3.1% (95%CI [2.8%、3.4%]) および 5.1% (95%CI [4.6%、5.5%]) と入院患者の死亡率が高かった。既往の肝疾患は軽症であっても死亡リスクの上昇と関連していた。入院患者では、軽度の肝疾患の既往は 180 日死亡リスクの 24%上昇と関連していた (HR=1.24, 95%CI : [1.14, 1.36])。中等度から重度の肝疾患の既往歴のある者は、入院の有無に関わらず、既往歴のない患者と比較して死亡リスクが 2 倍以上高かった (180 日時点入院患者死亡率 HR=2.33; 95%CI: 2.12-2.56, 非入院患者死亡率 HR=2.53; 95%CI: 2.01-3.18)。</p> <p>結論: 肝疾患歴は AH 死亡率の有意な増加と関連していた。この所見は、AH の予後や予防のために、肝疾患の既往を考慮すべきであることを示唆している。</p>			